

サポール

名古屋市立猪子石小学校

通級指導教室通信

令和7年4月8日発行



通級指導教室「一人ひとり自分の学び方との出会いがそこにある」

今年のサポールのテーマは、「一人ひとり自分の学び方との出会いがそこにある」です。

読むこと、書くことなどに困難さがある子どもたちは、学校で私たちの想像以上のしんどさを日々感じているのではないのでしょうか？「定型発達を想定した学習方法」がそのしんどさの一因ではないか、と私は考えています。例えば、板書をノートにきちんと写すことを求められているとします。「書く」と「考える」を同時に行うことが難しい子どもの場合、黒板を写す作業だけで精一杯で、自分の考えをまとめたり、友達の意見と比較したり、自分の気付きを深めたりする時間をもつことができずに授業が終わる、ということが起こります。板書をきちんと写すことも大切ではありますが、自分の考えを深め、友達の意見から新しい発見をする、そういう時間を過ごすことも大切だと思います。

では、そんな子どもたちに最初から「あなたは書かなくていいよ」と伝えればよいのでしょうか？中には「時間は掛かってしまうけれど、書いていくと自分の考えが整理されるのです」という子どももいます。ノートに書く、書かずに考えを深める、ICTを活用する、などの方法のどれを選択するかを子どもたちが決めること、そこに「自分の学び方との出会い」があるのです。

また、「自分にはこの学び方が合うはず」と思ったけれど「やってみたらうまくいかなかった」という体験も、選択の失敗ではなく「自分の学び方との出会い」への一歩です。「自分の学び方との出会い」は、学びを通じた「自己理解」なのです。自己理解の深まりは、自分に必要な支援をつかむチャンスにもなります。

「好きをとことん、楽しいをとことん」。子どもたちが好奇心を思い思いの方向に伸ばし、楽しみながら自分の学び方と出会えるように、私たちにできることはどんなことでしょうか。サポールでは、子どもが楽しみながら学ぶことのできる多様な教材を準備しています。このことは、保護者の皆様ともに語り合えればと思います。お待ちしております。